

円山動物園展望レストハウスおよび園内動物病院のオープンについて

円山動物園では、園内の中央に位置するサル山の横に休憩施設「展望レストハウス」を建築中でしたが、4月22日から一般公開する運びとなりました。

この建物は、財団法人日本宝くじ協会の「自治宝くじ普及宣伝事業」として昨年10月から建築していたもので、ゆったりとくつろぎながらニホンザルの生態を観察することができるように設計されています。

このレストハウスとサル山を2本のつり橋で結び、サルが餌を食べている様子をガラス越しに間近で見られるのが最大の特徴で、子どもたちが遊んだり、絵本を読んだりできるスペースも設けられています。

また、昨年11月に完成した「園内動物病院」においても、希少動物の精液や卵子の凍結保存などを行う「種の保存事業」の拡充や、幅広い年齢層を対象とした環境教育の充実など、さまざまな取り組みを行います。

1 施設概要

(1) 位 置	札幌市中央区宮ヶ丘3番地
(2) 構造・規模	鉄筋コンクリート造地上2階建
(3) 延床面積	290㎡
(4) 収容人数	130人程度
(5) 総工費	約1億3千万円

2 特徴

(1) 給餌スペース（1階）および展望ゾーン（2階）

ガラスで隔てた建物の外側に、飼育員が餌を置く給餌スペース（来園者は立ち入り不可）を設け、そことサル山をつなぐつり橋（金属製）を2基設置（つり橋は4月中旬完成）。ニホンザルがつり橋を渡って自由に行き来する様子や、この給餌スペースで餌を食べる様子を間近に観察することができます。

展望ゾーンでは、休憩スペースのほかに、前面ガラスの手前にカウンターを設置しているので、座りながらゆっくりとサル山全体を展望することができます。

(2) ゆったりゾーン（1階）

靴を脱いで上がれるスペースを設け、子どもたちが寝転んだり、ハンギングチェアや吊下げハンモック（各1基）で遊びながら、サルの行動を間近に見ることもできるようになっています。

(3) 子ザルゾーン（1階、3歳児以上対象）

主にニホンザルの行動である「揺らす」「ぶら下がる」「渡る」「隠れる」等を、アスレチック的な遊具を介して子どもたちが実際に体験できるようにクライミングウォールやクライミングロープを設置しています。床には安心して遊べるように厚いマットが敷かれています。

また、階段下の空きスペースを利用して、クマが冬眠する際に作る「くまのあな」を設け、日本産動物クマの行動を子どもたちが体験できるようにしています。

(4) 赤ちゃんザルゾーン（1階、3歳児未満対象）

乳幼児と一緒に母親が休憩し、備え付けの絵本を子どもに読み聞かせて時間を過ごすことのできるスペース。読み終わった後に実際に当園の動物に会いたくなるよ

うな絵本を選定しています。

なお、隣には授乳やおむつ交換ができる育児ルームを併設しています。

(5) その他

ソーラーパネルと縦型風車を南ゲート上部に設置し、環境に配慮した施設になっています。

3 贈呈式等

(1) 贈呈式

日 時 平成18年4月21日(金) 時間未定

場 所 展望レストハウス前

出席者 財団法人日本宝くじ協会業務部長 熊崎 学(予定)

宮の森幼稚園園児 ほか

(2) 一般公開

平成18年4月22日(土)～

4 園内動物病院での新たな取り組み

「動物病理研究室」の施設の老朽化や狭隘(きょうあい)化を解消するため「園内動物病院」を建設しました。この施設では、これまで同様、園内動物の入院・検疫機能の強化を図るほか、下記事業の拡充・充実を図ります。

(1) 種の保存事業の拡充

動物園の役割の1つに「種の保存」が挙げられます。新しい動物病院には精液や卵子の凍結保存が可能な「種の保存作業室」が設けられましたので、希少動物の人工授精等の研究が可能になり、絶滅する恐れのある動物を生息域外で増やすことができるようになります。

(2) 環境教育の充実

動物園は生きた教材を通して、生命の大切さや生き物への思いやり、また彼らの生息する自然環境について学ぶことができる場所です。

動物園が従来行ってきた環境教育は、主に小・中学生の総合学習に対応するものでしたが、新しい動物病院の完成を機に、診察室の大きな窓から動物の治療の様子を見てもらうほか、超音波診断器(エコー)を使って小動物の心臓の動きや胎児を見てもらうことにより、生命の尊さや不思議さを実感していただくプログラムを用意するなど、幅広い年齢層を対象とした環境教育を充実したいと考えています。

問い合わせ先

円山動物園管理課 高山、酒井

電話：621-1426